

科目名称：	日本事情III	
担当者名：	王玉	
区分	授業形態	単位数
留学生別科に関する科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
初めて来日する留学生にとって、言葉はもちろんのこと、その他日本の文化背景や国民の考え方、生活習慣、風土人情などいわゆる異文化に対して、どのように理解するかは、日本での留學生活が円滑に行うことができるかにかかわる最も重要なことだと考えられる。また、学園生活を含む普段の生活上のマナーや、いざというときの対応方法なども事前に知る必要がある。したがって、本授業は日本事情および注意事項を紹介するとともに、これらに関して日本語の正しい使い方をマスターしてもらうことを目的とする。		
授業の達成目標・到達目標		
日本で日常生活においてのマナーを理解・遵守すること、自主的に学習する心構えと態度を身に着けることを達成目標とする。具体的には対人挨拶・応答ができること、交通ルールを理解し守ること、学校規則を理解し守ることなどとする。		

基礎教育科目	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し他者との信頼関係を築いていくことができる。	○
DP(2)	様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	専門的な知識や技能を修得し、それぞれの分野において、これらを柔軟に活用していくことができる。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)			80	20	100
全学DP(2)					0
全学DP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》
備考		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
日本に留学にきて、日本文化、日本人の考え方と生活習慣が理解できる	日本文化、日本人の考え方と生活習慣がだいたい理解できる	日本文化、日本人の考え方と生活習慣がある程度理解できる	日本文化、日本人の考え方と生活習慣が理解できない部分もある	日本文化、日本人の考え方と生活習慣が理解しようとしにくい
日本で日常生活をする際、マナーや交通ルールを遵守する	日常生活ではマナーや交通ルールを遵守している	日常生活ではマナーや交通ルールをだいたい遵守している	日常生活ではマナーや交通ルールは半分以上守っている	日常生活ではマナーや交通ルールはあまり守っていない

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 電子黒板によるガイダンス：留学生に関する日本の各種制度紹介（Ⅰ）	在留手続き・更新・再入国・日本の学校（Ⅰ） 日本の四月の時事	120分
第2回 日本で日常生活上の留意点Ⅰ・緊急時対策等	居住マナー 心得・交通ルール・各緊急時の連絡方法 読解1(加藤家の一日)	120分
第3回 各種留学生に関する日本の各種制度Ⅱ	進路試験・奨学金・読解2(加藤家の一日)	120分
第4回 外国人向けサービスあれこれ	日本語学習を提供する公的機関・民間のボランティアなど・読解1(同上)読解2(同上)	120分
第5回 日本で日常生活上の留意点Ⅱ	不審な来電・連絡などに警戒 身を守るなど 読解1(同上)読解2(同上)	120分
第6回 伝統行事(1)日本人のライフスタイル(1)	日本の住まい1・読解1(同上)読解2(同上)・5月の時事	120分
第7回 石川県・日本の伝統文化Ⅰ	金沢の食・読解1(同上)読解2(同上)	120分
第8回 日本社会のシステムⅠ/「日本の心」(1)	日本の行政・茶道など・読解1(同上)読解2(同上)	120分
第9回 石川県・日本の伝統文化Ⅱ	石川の祭り1・百万石祭り・読解1(同上)読解2(同上)	120分
第10回 義理・人情/マナーとタブー(1) (日本人学生とのコミュニケーションをはかる)	日本人学生とのコミュニケーションで聞き取れたこと、分からなかったことについてレポートにまとめること	120分
第11回 伝統行事(2)日本人のライフスタイル(2)	日本の季節・読解1(同上)読解2(同上)	120分
第12回 お世辞・敬語など/「日本の心」(2)	華道・読解1(同上)読解2(同上)	120分
第13回 日本の主な観光地とその歴史文化(1)	日本の地理1・石川の祭り2・読解1(同上)読解2(同上)	120分
第14回 神と祭りと日本人Ⅰ	日本人と神・様々な「神」1・読解1(同上)読解2(同上)	120分
第15回 グループワークで来日してきた見聞を日本語でまとめる。	総合練習に関するまとめ方など	120分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。
レポート(80%)・授業への積極的関与(20%)を合せて総合評価します。

課題に対してのフィードバック

回収した課題を点検・添削し、次回の授業で個人に返却し、共通した問題点を説明したり、全体の分析をしたりして理解を深めさせる。

教科書・参考書

毎回プリントを配付する。
参考書：「加藤家の一日」「日本の伝統文化」「日本を知る(日本の近代化に関する人たち)」改訂版 板坂元著 スリーエーネットワーク出版 他 関わる資料 プリント配付